

～TANKYU～

谷地南部小学校

校内研究だより

2022. 11. 25

No.34 文責 伊藤

あなたの仕事は何ですか？

先生方なら何とお答えになるでしょう？実は、私が5年前に初任者研修を受けていた時、県センターでの研修会で初任者の同期全員に質問されたのでした。私の答えは、「子どもの成長に寄り添うこと」「子どもと一緒に成長できる人」のような気がします。その研修会の中では、「教員」「教諭」「教師」などという答えとともに、様々なトンチめいた答えが次々に出されました。出てくる答えは、発表している人が仕事をしている中で大切に思っていることが反映されているような気がします。私は、そういう捉え方もあるのかと自分にはなかった仕事の側面を感じながら聞いていました。

さて、第1段落で3つの似たような言葉が出てきましたね。「教員」「教諭」「教師」です。では、これらの言葉はどのように違うのでしょうか。私は、現段階で「教師」ではありません。恐れ多いです。それに、6年かけて合格したのは「山形県教員採用試験」ですから。でも、初任研でもらったバイブルとなる冊子は、『学び続ける「教師」』なんですよね～。校長先生、教頭先生をはじめ、多くの先生が「教師」だと思います。退職前後には、私も「教師」になればと思います。教師であるかどうかは、子どもや保護者など他人からの評価なので、自分でなれるものではありませんが…。

それでは、どうしたら私は教師になれるのでしょうか。それは「担任力」をつける（磨く）ことに他なりません。「担任力」とは、あの3つですね。忘れた方は、このあたりでもう一度確認してみましょう。担任力を磨くために、先日西部小学校の授業研究会に参加し、複式学級の指導について研修を積んできました。とは言っても、初めて見た複式授業だったので、参観の仕方もわからず視点もほとんどない時間になってしまいました。しかし、一歩踏み出して参加したことで、今まで言葉しか知らなかった「複式学級」を実際に見て、日々の指導を通して研修を深めていらっしゃる西部小学校の先生方や秋葉指導主事の話聞いて、前よりは世界が広がったのかなと思います。

予測困難な時代において、まだまだ課題は山積みです。主体的、対話的で深い学びの実現を目指して「何ができるのか」。ICT 機器の更なる活用と効果的な実践。担外の先生や交換で持っていて音楽・図工。苦手なところも正直ありますし、まだまだ技が足りないところもたくさんあります。しかし、そこから逃げずに（目を逸らさずに）少しずつチャレンジしていくことが、「教師」への第一歩だと思い、これからも頑張ります。

為せば成る為さねば成らぬ何事も
成らぬは人の為さぬなりけり

※ICT（タブレットに限らず）も、「為せば成る」！